

第 36 回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム社会科学学生賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は当論文賞受賞時のものです。執筆時と異なる場合は括弧内に記載。

入賞

「コンピュータによる感情評定は注意資源を分配されにくい
—感情喚起画像に対する評価プロセスに着目した脳科学的検討」

(未発表：修士学位論文)

池田 利基 筑波大学 大学院人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻
博士後期課程 3 年 (博士前期課程 2 年)

本論文は、メディアの等式 (コンピュータなどのメディアの出力を現実中存在するものとして人間が認識すること) という問題について、脳科学的なアプローチから、「コンピュータによる感情評定は注意資源を分配されにくい」という結果以外にもいくつか興味深い結果を導き出しており、論文としての完成度は高い。きわめて限定された実験に基づく結果を AI 社会に向けた研究としてどのように発展させていくのか、今後の研究を期待したい。

佳作

「津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」の開発と社会実装
—コミットメントとコンティンジェンシーの相乗作用—」

(論文発表：実験社会心理学研究, 2019 年 3 月)

杉山 高志 京都大学・防災研究所 特定研究員
(大学院情報学研究科 博士後期課程 3 年)

津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」は有効であると考えられるが、際の避難となった場合に、情報弱者にどう手助けするかという難点は残り、今後の課題である。また、コミットメントとコンティンジェンシーの相乗作用という心理学的・人間行動学的なキー概念を用いて説明しようとしており、院生らしい着眼点であり評価できる。前半の「逃げトレ」の説明とは十分には噛み合っていない為、引き続き研究されることに期待する。

佳作

「ICT プロフェッショナルリズムの現代的課題」

(論文発表：日本情報経営学会誌 39 巻 4 号, 2020 年 2 月)

山崎 竜弥 富山大学 経済学部 経営学科 専任講師／
明治大学 大学院商学研究科 博士後期課程 3 年
(明治大学 大学院商学研究科 博士後期課程 3 年のみ)

ICT プロフェッショナルリズムの必要性や現状の問題の指摘は評価できる。解決策として認証基準の策定などの取り組みを強制力によって行うという提案の実現可能性や妥当性には疑問が残る。ICT プロフェッショナルリズムの確立のために Everyone takes his/her respective responsibility を強調するのであれば、応分の報酬・地位を与えることも考える必要があるのではないかと感じた。